

大阪国語教育アセンブリー2013 全体会 発言趣旨

■音無氏

「何のための国語教育か」「国語力とは何か」という根源的な問題を前に、試行錯誤している先生方は少なくないだろう。かく言う私も、恥ずかしながら今だ確固たる結論に至ることなく自問自答を繰り返している一人である。そうした日々の違和感や戸惑いを分け合うことで、今後の国語の授業がおもしろいものになれば、特に迷いの只中にあるような前途ある先生方のお役に立てればと願っている。

まず経験上確かなことは、授業者の気乗りしない教材は生徒にとっても退屈だということ。だから「また羅生門か」と思う代わりに、今回のテーマは「流されやすい若者の心理」、などと教師自らが隠しテーマを設定し、常に新鮮な気持ちで取り組むことで、生徒にも教材の魅力を見出してほしい。個人的な好みの分かれる教材も、敢えて好きなふりをする、おもしろいところを見つける、好きになることが、最初の一步だと考えている。授業の先には考査や評価があるから、チームで「最低限これだけは押さえない」要点を確認しておく必要はあるが、目の前の授業を受けるプロ＝生徒に対して、授業者各々がプロとして個性的なメッセージを持っていることも重要だと思う。

これまでいろいろな生徒と接してきた。とりわけ定時制に勤務していた時「うざい」「うっとおしい」とすぐむ生徒が、一冊の絵本に感激し、表情を和らげたことが印象的だった。表現に心を揺さぶられ、ストーリーに引き込まれる体験を、初めてしたという。難解な語彙を繰り出す前に、生徒の力を見極め、段階に応じた言葉で語りかけることも大切だろう。知識を習得し、力を得ているという実感がいかに生徒の励みになるかといった経験をお持ちの方も多くいらっしゃるだろう。皆がノウハウを持ち寄り、伸ばしたい力を、信念を持って育てていくことが国語教育の仕事だと考えている。そのためにはこの場の参加者同士の対話も、大きな活力となろう。

■辻氏

岸和田高校の辻と申します。私は、古典教育における目的のひとつは日本の歴史・文化を理解することにあると考えます。古典作品は、リアルな人間像を描き、当時の文化・思想を読み取ることができます。本日は、私の非常勤講師時代の経験と現在の勤務校での経験を比較しながら、現在抱えている課題をお話いたします。

非常勤講師としてつとめた高等学校では、「古典という科目を学習することの目的がわからない」と言ってくる生徒が多くいました。授業の内容に興味をもたせるために、作品が成立した時代の社会、その時代に生きた人々の生活や倫理観、宗教観、さらには、作品が成立した時代の社会と現在生きている社会とを比べながら、日本の歴史・文化を理解し、古典のおもしろさに気づいてもらうことを目標として授業をすすめていました。作品および作品周辺のものから現代との感覚の差を体験することを通して、生徒たちの教材への興味はあがり、「古典に親しむ」という目的達成はできていたと、私は感じています。

一方、現在の勤務校では、また異なった生徒のニーズがあります。生徒のほとんどが大学進学を希望しております。彼らの中「古典を学習することの目的」のひとつは、「大学受験に必要であるため」といことがあります。そのため、生徒は、口語訳などの予習をします。しかし、生徒の中では、古典学習の目的を受験以外で考えた時、「なぜ古典の勉強をするのか」といった問題を少なからず抱えています。

生徒にアンケートをとると古典について「なぜ勉強するのかわからない」という答えが目立ちました。日本の歴史・文化を理解するためという目的を生徒に提示をしながらも、授業者として、日本の歴史・文化を理解し、その上で、どのように古典を通して現在の「生きる力」へとつなげていくの

かが課題として残っています。

■前原氏

大学院生の前原陽一と申します。語彙指導について研究しています。きっかけは、小中高の学校生活を通して新しい教材を学ぶ際に必ずある、辞書を利用した新出単語・難読語を調べる課題が嫌いだったことです。例えば、「基礎」と辞書で調べれば「土台」という意味が登場し、「土台」と調べれば「基礎」と出るような辞書の内容に違和感を持ちました。また、「脱皮」というような、文脈で大きく意味が異なる語にも、「ややこしさ」を感じました。

高校生を対象とした語彙指導の文献の少なさは、これから改善が必要なものであると考えます。私が現在研究しているのは、類義語を用いた語彙指導です。特にコーパスを用いた指導に可能性を感じています。私が使用しているのはBCCWJ、現代日本語書き言葉均衡コーパスという、書籍や白書、Yahoo知恵袋などのジャンルの書き言葉を無作為に約1億語納めているコーパスです。何か語を指定して検索すると、その単語が使用された文章を検索することができます。

有名な『故郷』という作品を例に挙げます。

彼は突っ立ったままだった。喜びと寂しさの色が顔に表れた。唇が動いたが、声にはならなかった。最後に恭しい態度に変わって、はっきりこう言った。

これを見ると、「恭しい」という言葉には身分の違いが必要になることがわかります。コーパスで検索しても身分の違いを意識した例文ばかりが登場します。ここで意味が似ていると考えられる「礼儀正しい」という言葉と比べてみますと、「礼儀正しい」には身分の違いは必要ありません。こうした微妙な違いを意識することで、言語感覚を高め、人物の読み取りにも貢献することができます。

「目的」という言葉がこの会で重要になっていますのでその「目的」という言葉を使いますと、国語の時間では登場人物の読み取りが重視されがちですけれども、語彙を増やす、言葉を獲得するという目的も忘れてはいけないものだろうと思います。